

ビデオナービズネットとは 個人規模で映像関係を業務としている事業者及びそのことに関わっている者の組織です。

公式WEB <http://www.videoner-biznet.com>

📷 5月定例会のご案内

「オンライン定例会を毎週開催」

5月もZOOMによるオンライン定例会になります。コロナ収束まで月4回開催を予定しております。この大変な時こそ、ビズネットの仲間で助け合っていきましょう！5月の予定は右記の通りですが、こんなことしたいなどのご提案もお待ちしております。原則自由参加です。

WEB会議も参加していくうちに慣れてきますので、積極的にご参加ください。

5月の予定

5月4日（月）15時～16時10分（70分間）

内容 意見交換他

以下開催日時未定ですが、講座、上映会、補助金助成金、飲み会など行う予定です。詳細は役員話し合いの上メーリングリストにてご連絡いたします。

ZOOMへの接続方法

開催時刻になりましたら、パソコン・スマホなどでZOOMアプリを立ち上げ、事前にメーリングリストでご連絡したミーティングIDとパスワードを入力して、入室してください。ご不明の点は脇田（090-5499-5947）までお電話ください。

👥 4月定例会のご報告

「オンライン定例会（WEB会議システムZOOM使用）」

コロナウイルスの影響で日暮里での4月定例会は中止になりましたが、その代わりに4月27日（月）に今話題のWEB会議システムZOOMによるオンライン定例会を開催しました。

最終的には12人の会員がログインし、2・3・4月の通常定例会が中止だったため、久々の顔合わせとなりました。それぞれの近況などを話しあい大盛況の会議になりました。

私個人としても皆さんの元気な姿に元気ができました。

以上敬称略 文責：脇田



WEB会議システムZOOMへの会員参加の様子
WEBカメラ品不足のため、鈴木さんは閲覧のみで参加

✍️ 会員コラム

高橋さん「西湘のビデオ屋稼業」

吉岡さん「よっしーの休日（10）」

佐藤さん「卒業式撮影・ドローンの故障」
が続きます！

（文責各筆者）

西湘のビデオ屋稼業

2020.5月 高橋 昌一
(含むことあり：個人的、感覚的話し)

コロナの「3密」。人によって温度差がありますねえ。

大概の人間はしっかりとした根拠なく「自分は大丈夫」と思うらしいです。

(以前読んだ本にそう書いてありました)

2、3、4月と日暮里での定例会を、続けて中止にせざるを得なくなり、Web 会議にシフトすべく、脇田さん、吉岡さんのサッサとした尽力により、4/27 ビズネットでの初 Zoom 開催へ。

当日は参加予定者が画面に出揃うまでもそこその時間を要し、知識あるものにとっては少タイライラされた方もいられるかも知れないが、例えばそれは撮影でも、編集やオーサリングソフトでも、同じ事。知っている者にとっては何でもないことが、そうでない者にとっては訳のわからなく高い大きな壁に感じてしまう。ビズネットではそういうケースでは教え合い、乗り越え合う無言のルールが存在し、作用すると思っている。「問われれば」という大前提はあるものの、つまりは究極のお互い様精神。さらに、教えてもらうに「ありがたし」の気持ちを持たば、より身につきやすい。

さて、皆様お久しぶりでした。今回の Web 会議では皆さん、お互いのお顔を見合うことができて何だかホッとされた方も多かったのではと推察いたします。もちろん私もそうです。

お互い、ほんの少しの近況報告しかできませんでしたが、感じたのは「リアル」の会議よりも、流れていく時間の速さ。回を重ねていくうちには要領も精度も高くなっていくとは思いますがそこはみんなでより意識していけると思います。Zoom はこれからもテーマを決めながら開催していくことになりました。オンライン飲み会を要望される会員もおられて、それはそれでどのような感じになるものなのか、実はかなり興味が湧いております。

さて、高橋個人の業務にかんしては、元々5月6月は数少ないものの恒例の撮影はやはり秋口に延期となりました。さらに例年は7月から本格的に立ち上がり始めるのですが果たして…今はまったく予想もつかない。だから如何に、出来るだけ、心倒さずに日々をどうやって送るか…今、頭の中で何かが巡っています。

今日は編集作業がまだ残っているというのに、それを横に置いて資料整理をしちゃっている自分。物理的整理をしながら、何かとごちゃごちゃしている頭の中も、多少はスッキリとしておきたい衝動にかられております。

よっしーの休日(10) よっしーのお手伝い日記 番外編

アソシネット株式会社 吉岡

2020年2月27日

有限会社 都市建築写真事務所 佐藤さん

この日は、ビズネット会員であります、佐藤さんを私の自宅に招き、ビデオの設定等のレクチャーを行いました。佐藤さんは、建築写真の専門家ですが、せっかくなので、ゆくゆくはビデオ撮影にも慣れてもらおうと、使わなくなった業務機を渡しました。民生機では、あまり応用が利かないので、やはり業務機で操作は慣れたいところ。

写真家である佐藤さんは、どうしてもスチル寄りの思考になっていますので、ビデオ撮影の時は、できるだけビデオ寄りの思考になってもらいたい。

スチルとビデオの考え方の違いは、いろいろありますが、今回できるカメラの設定としては、露出の違いでしょうか。スチルはシャッタースピードで明るさを調整するのに対し、ビデオは絞り(アイリス)で調整する。

近くの公園に行き、屋外での業務機の設定をレクチャー。ND フィルターの使い方も教えました。ND、普通に使うじゃん、と思うでしょうけど、スチルでは、滝や川を糸のように写すなどの特殊な使い方が主(おも)です。ビデオのND フィルターは、適度な被写体ブレのためで、できるだけシャッタースピードを稼ごうとするスチルとは考え方が違います。

引き続き、自宅へ行き、室内での設定をレクチャー。70%ゼブラを使い、部屋の明るさを変えながら、適度な明るさをいろいろ試しました。やはり、映像の綺麗さに直結しますので、適度な明るさは重要。で、それを即座にセッティングできる練度も実戦では重要になります。

模造紙に書いた人形で、カメラワークの練習。ひな壇に3列に並んだ学生を、卒業曲に合わせて、ゆっくりパン。何曲か終え、手持ちに切り替え、手持ち用の設定を手早く行う。

あとは、おまけで、民生機のハンディカムの設定方法も見ました。業務機との設定方法の違いを確認した形ですね。

こうして見ると、私自身、ビズネットに入って10年ちょい。本当にゼロからだったけど、ずいぶんとやれるようになったんだな、と感慨深いですね。

1か月後の3月下旬、佐藤さんは、赤岡さん(赤岡ビデオ企画)の小学校卒業式の現場1つを、一人で受け持つことになります。どうだったかは、ご本人に聞いてみてくださいね。

赤岡さんから一人で小学校の卒業式(2クラス)の撮影を任されました。

恥ずかしながらスーツを持っていなかったのでまず、秋葉原の近くにある横山町(洋服問屋街)サカゼンにて手頃なものを購入した。先に貸していただいていた過去のDVDを見ていたのと、式前日に担当小学校での打ち合わせがあったので当日気持ちは落ち着いていた。

カメラは赤岡さんからソニーハンディカム2台、私のEOS R フルサイズセンサー レンズ APS-C サイズ用 18-135 mmを使用。カメラ位置は下手舞台袖1台、上手ギャラリー1台。

私物はギャラリー中央後方。式が始まる前の点描撮影では校内で写真屋さんとクロスすることが多く、時間配分はよいと思った。今回、失敗したのは「卒業生退場」の時だった。

式が後半になり「君が代」斉唱が始まった。私は卒業生で止めておけばよかったのに、父兄までパーンして撮影した。その分上手ギャラリーにいる時間が長くなった。あっという間に「君が代」が終わり「卒業生退場」と司会者が言った。とっさにギャラリー中央後方にあるカメラから撮れば先生、生徒を真正面から狙えると走った。すでに1階にいた写真屋さんは私のカメラ 30 cm横で撮り始めていた。何とか構図とピントを決めた時には先頭の1組の先生はファインダーの画面中央から下に動いているところだった。

ここで一度カメラを止めたら中途半端になると思い撮影を続けた。ギャラリー上手のカメラ位置に戻りながら30分以上はEOS-Rは撮影していると思った。やはりカメラは2クラス目の途中で電源が止まっていた。EOS-Rの写りが高精細、シャープであっただけに残念に思った。学校撮影では平等に写すのが基本。2機種のカメラ画質が違うのと、カメラ位置が真正面と横(やや後方)では公平でなく繋げづらいシーンになってしまった。くやしさが残った一日になった。

月に1回、役所にドローン(Phantom3)で写したものを報告用として提出しなければならない工事現場でのこと。飛行中に「IMU」の異常を知らせるサインが iPad に出る。「IMU」はドローンを制御する心臓部。急ぎよ、以前習ったドローンスクールの先生に電話する。運よく電話に出て頂いた。コンピュータ中枢の事はブラックボックスになっていて、分からないと言われた。ドローンがどこに飛んでいくか分からないので飛行を止めてメーカー(DJI 社)に修理出した方がよいとの返事。別の新しいドローンは事務所にあるが今年の12月に買ってまだ一度も飛ばしていなかった。その日は異常を知らせるサインを無視して飛ばし続け何とか事なきを得た。すぐに機体を修理に出した。カメラ部分を除いて全取り換えで修理費は24,000円。新品にも見えるぐらいになって修理から戻ってきた。修理中、新しいドローン(MAVIC 2 ZOOM)を早速テスト飛行するためいつもの江戸川河川敷に向かった。その日は無料駐車場が満車であった。何となく刑事ドラマの撮影現場のような雰囲気であった。ようやく1台空いたので車を止めようとする、警察官がイヤな顔をして私を見た。車を降りると近寄ってきて、「隣の車の車内で人がお亡くなりになり、私の反対側の警察車両(白いワンボックス ガラススモーク)にご遺体を乗せるのでこっちに来て下さい」と言われる。いつも飛ばしている所に来ると常連さんたちがいた。気分を切り替えて飛ばしてみる。聞いてはいたが MAVIC 2 ZOOM は本当に素晴らしく飛行が安定していた。良い手ごたえを感じた。別の日、国道沿いの巨大倉庫(建築中)でもそのドローンを使用した。ZOOM 機能があるため、国道近くにドローンを近づけることなく被写体を引き付けて撮影することが出来た。倉庫内部では Phantom3 の機体はふらついて目が離せなかったが、MAVIC 2 ZOOM は一直線に安定して意図通りに飛行してくれた。撮ったものを見ても前の機体では周辺光量落ち、樽型収差もソフトで調整する必要があったがこの機体では気にならない絵作りをしてくれた。

「EOS-R」も「MAVIC 2 ZOOM」も昨年暮れに購入したものだが、新しいものには性能がアップしている分、仕事には味方になってくれると思った。